て

●緑色は別名

《目次》 1
テーダマツ 2
テーブルヤシ 3
ディアスキア 4
ティアレラ 5
テイカカズラ 6
ディモルフォセカ 7
テウチグルミ 8
テガタチドリ 9
テキリスゲ 10
テタテート（ミニ水仙） 11
テツカエデ 12
テッポウユリ 13
テマリカンボク 14
デュランタ 15
デロスペリマ 16
デロスペリマ・ペリドット 17
テングクワガタ 18
テングサ 19
テンジクメギ 20
デンドリビウム 21
テンナンショウ 22
テンニンギク 23
テンニンソウ 24

【花期 ――月】

テーダマツ　旧津金小学校跡に立つ　2013.5.3北杜

花　実　2013.5.3北杜

枯葉　2013.5.3北杜

幹　2013.5.3北杜

テーダマツ ―― 別名三葉松〈マツ科マツ属〉

アメリカ東海岸原産。明治末期に渡来し、関東以南の暖地に「見本林」として植栽されている。特徴は3本の葉、そして1本1本がねじ曲がり硬いこと。また2～3年経つと古い葉が落葉し、ほかのマツより落ち葉が多いこと。枯れて落ちるため黄金色になることから「黄金松」ともいわれている。【この松の幹に吊るされた案内書より】

■武田参内の宝物が陳列されている高野山の成慶院付近の「三葉松」が、甲斐の武将である信玄公を偲び高野山から種が飛んで来て、武田神社に生息し400年経っているとのことです。【同案内書】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
テーダマツ			●									

【花期 一月】常緑低木

テーブルヤシ　　2022.6.22長野

テーブルヤシ ――〈ヤシ科カマエドレア属〉

メキシコから南アメリカにかけて、およそ100種が分布するヤシの仲間。高さ1～3m。芯から葉を出しながら上にのびる。葉は羽状複葉。雌雄異株。成長は早くないのでインテリア性も高い。いくつかの種類が観葉植物として親しまれている。【77】【114】【179】【180】

■テーブルヤシは、れっきとした正式な和名。【77】
■エレガンス(テーブルヤシ)…最も一般的な種。成長すると2mほどになる。【77】
テネラ(ヒメテーブルヤシ)…とくに小型種。成長しても1mほどに収まる。【77】
エルンベンス(キレハテーブルヤシ)……丈が3mほどになる大型種。【77】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
テーブルヤシ												

【花期 4〜11月】

ディアスキア　花　　2016.6.26木祖

葉　　2016.6.26木祖

ディアスキア ――〈ゴマノハグサ科ディアスキア属〉

南アフリカのドラケンスバーク山脈に分布している常緑多年草または一年草。株元からよく分枝し、マット状に広がる。高さ20〜45cm。葉は対生、細く小さい。花は総状にたくさん咲く、下唇に距が2個ある、花色はローズピンク、白色、オレンジ色など。園芸品種も数多く作出されている。【58】【77】【84】

■学名Diascia fetcaniensis。【58】
■Diasciaは、ギリシア語の「ふたつの袋」の意。【84】
■ディアスシア。【58】【84】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
ディアスキア				●								

【花期 4〜5月】

ティアレラ・スピリングシンフォニー　2017.5.23長野

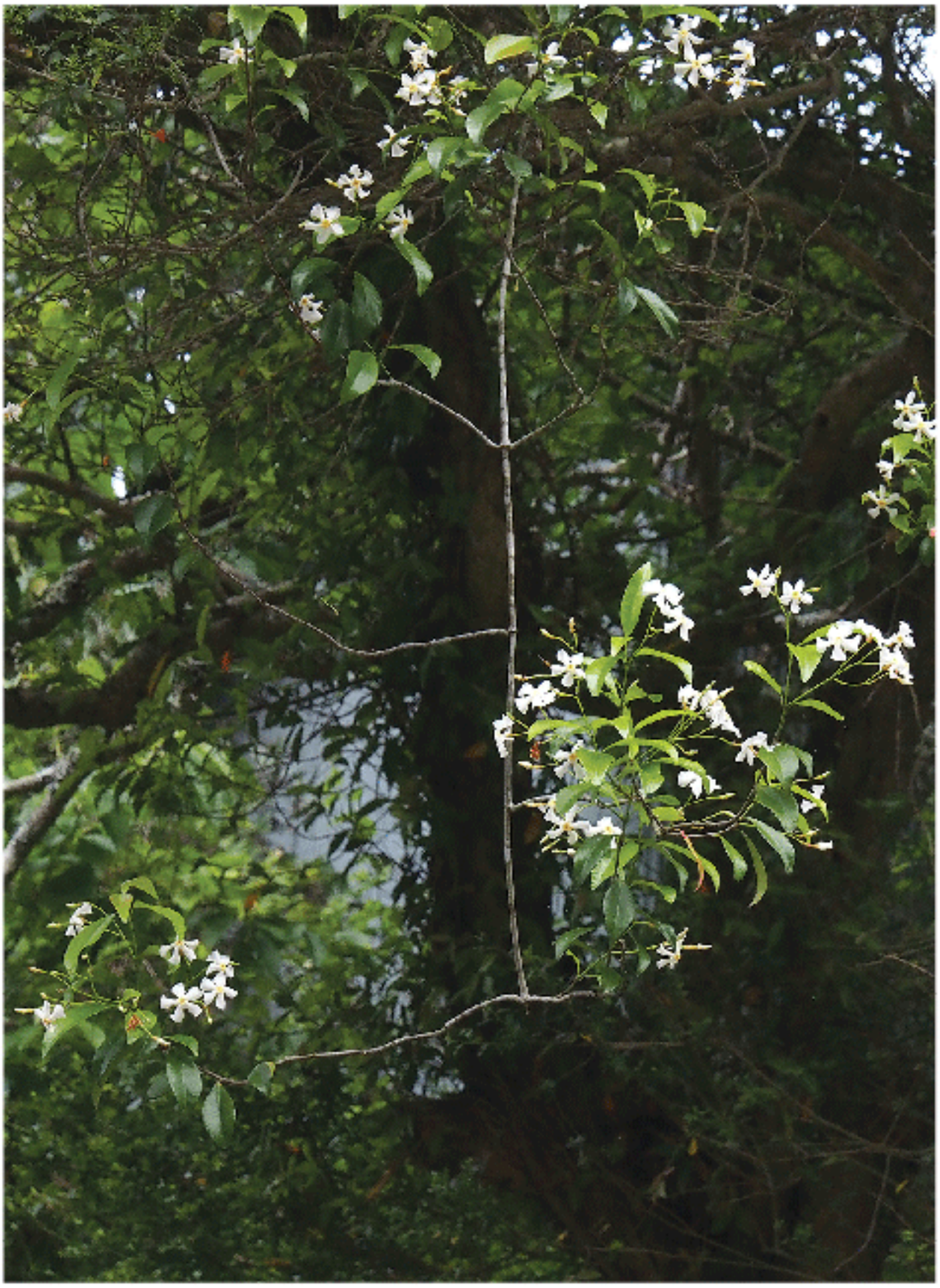
ティアレラ ―― 〈ユキノシタ科ズダヤクシュ属〉

北アメリカ東部に分布するコルデフォリア種やウェリー種を中心に作出された種間交雑の園芸品種群。常緑多年草。高さ15〜40cm。根生葉は掌状浅裂〜深裂。花茎をのばして総状または円錐花序をつくる。花は白色〜薄桃色。【58】【77】【78】【84】

■学名Tiarella cv（品種群の総称）。【58】
■名は、ギリシア語のティアラ（tiara ＝宝冠）に由来。【77】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
ティアレラ			○									

【花期 5〜6月】常緑蔓性



テイカカズラ　風車に似た花は、多数散らばり芳香を放つ【25】　2016.6.6南木曽

テイカカズラ 定家葛 〈キョウチクトウ科テイカカズラ属〉

林内に生える。茎から気根を出し木や岩を這い登る。葉は対生、楕円形〜狭楕円形、長さ3〜7cm、全縁、革質、光沢がある。枝先や上部の葉腋に疎らな集散花序を出す。花は高坏形、白色、後に淡黄色、花冠5裂、径2〜3cm、平開、筒部は長さ7〜8mm、芳香がある。果実は袋果、線形、長さ15〜25cm。【4】【18】【72】

■名は、藤原定家に因む。【18】■藤原定家＝鎌倉初期の歌人。【5】
■茎を傷つけると乳液を出す。【18】
■江戸時代から栽培され、園芸品種も多い。【4】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
テイカカズラ				○								

【花期 3〜7月】

ディモルフォセカ　　2016.4.19木祖

ディモルフォセカ ——〈キク科アフリカキンセンカ属〉

南アフリカ原産の秋蒔き一年草。高さ20〜50cm。頭花は径4〜7cm、花色は黄色〜オレンジ色、白色が中心、花は日中に咲き、夜は閉じる。筒状花と舌状花の両方に果実が実る。花茎に葉はつかない。【83】【84】【114】

■名は、ディ(2つの)、モルフェ(かたち)、テカ(箱)の3語から成っており、一輪から2種の異る形をしたタネ(正確にはそう果)ができることに因む。【77】

■ピンク〜赤紫色の花もディモルフォセカの名で出回る。この場合オステオスペルマムか、その交配種であることが多いようだ。【83】

■オステオスペルマムは花茎に葉がつく。【84】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
ディモルフォオセカ		●										

カシグルミ　雌花　実（円内）　2011.5.21長野／（円内）2011.10.19長野

雄花序　2004.4.22長野

実　1995..

幹　樹皮　2011.5.19長野

テウチグルミ　手打胡桃　別名カシグルミ〈クルミ科クルミ属〉

中国原産。長野、新潟、東北地方で果樹として栽培されている。高さ10〜20m。樹皮は暗い灰色、やや平滑。葉は互生、奇数羽状複葉、長さ9〜27cm、小葉は2〜4対、楕円形、長さ7〜12cm、頂小葉はやや大きい。雌雄同株。雄花序は前年枝の葉腋から下垂、雌花は本年枝の先に直立。花柱2個。果実は核果、ほぼ球形、径4〜5cm、灰緑色、10月頃熟す。種子は食用。【4】【18】

■名は、果実は殻が薄く、手でも割れるから。【18】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
テウチグルミ		●	●									

【花期 7〜8月】

テガタチドリ　　2003.7.22志賀高原／円内2003.7.12志賀高原

花　萼片の先は尖らない【2】

葉　　2003.7.12志賀高原

テガタチドリ 手形千鳥 別名チドリソウ〈ラン科テガタチドリ属〉

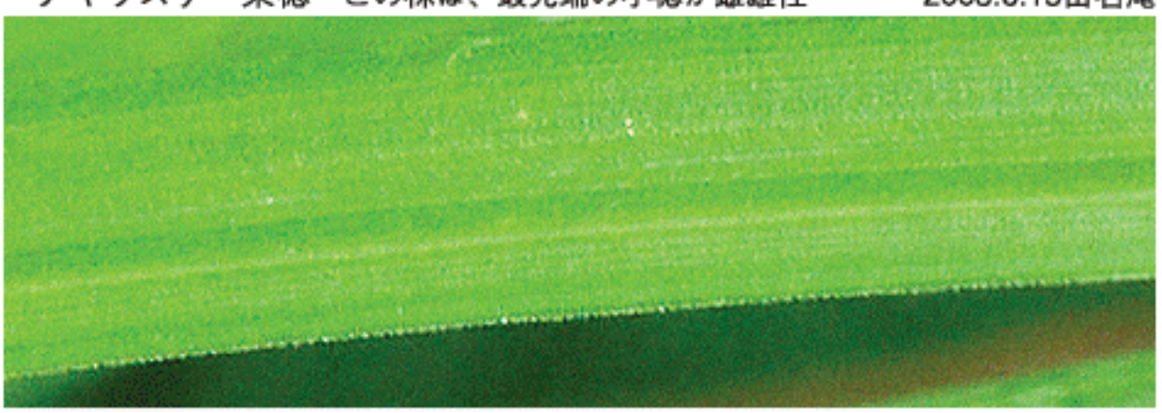
深山から高山に生える多年草。地中に手の形をした多肉根とひげ根がある。茎は直立、高さ30〜60cm。葉は互生、広線形または広披針形、長さ10〜20cm、上葉は少し尖る。総状花序に淡赤紫色の花を多数密生、萼片は卵形、長さ5mm内外、先は尖らない、唇弁は3中裂、距は細長く、下垂、子房より長い。【2】【3】【18】【42】

■名は、手形は多肉の根の形から。チドリ(千鳥)は花の形から名づけられた。【2】
■ハクサンチドリは、花序の花の数が少なく、萼片の先が尖る。【2】
■ノビネチドリは、葉が楕円形または卵状楕円形で、ふちは波を打つ。【3】【7】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
テガタチドリ												

【花期 5〜6月】

テキリスゲ　果穂　この株は、最先端の小穂が雌雄性　2003.6.15苗名滝



葉のふち　2003.6.15苗名滝

テキリスゲ 手切り菅 〈カヤツリグサ科スゲ属〉

山地の川岸や湿地に生える多年草。高さ25〜70cm。茎は鋭い三角柱状。葉は長い、幅4〜8cm、ふちに細く尖った鋸歯。小穂は5〜7個、長柄、垂れ下がる、最上部の小穂は先の方に雌花、基の方に雄花をつけるか、雄花だけからなる、他の小穂は雌性、円柱形、長さ3〜10cm、幅4mm、柱頭2個。【3】【32】【42】【58】

■名は、葉のへりがひどくざらつき、ススキの葉のように手を切るので。【32】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
テキリスゲ			●	●								

【花期 11～4月】

テタテート　　2017.3.10フラワーガーデンおぶせ

ミニ水仙・テタテート ―― 〈ヒガンバナ科ユリ属〉

スイセンの丈が低い園芸品種。多年草。高さ15cm。葉は広い線形、緑色。花は1茎に1個、径3cm、黄色(レモン色)、花被片が後に反り返る。【78】【鉢の名札】

■花名の「Tete a tete(テタテート)」はフランス語で「ないしょ話」。【78】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
テタテート	●											

テツカエデ　両性花と雄花が同一の株と雄花だけの株がある【37】1999.7.4鬼無里

葉　1999.10.9鬼無里

葉の芽生え　1999.5.7鬼無里

幹　1999.7.4鬼無里

テツカエデ　鉄楓〈カエデ科カエデ属〉

日当たりのよい開けた林の谷筋に生え、高さ10〜15m。樹皮は暗褐色〜帯緑暗灰色、やや滑らか。若枝や花序に褐色の毛。葉は対生、葉柄は長く太い、葉身は5角形、長さ10〜15cm、掌状に5浅裂、先は鋭く尖る、ふちに重鋸歯。円錐花序を垂らし、淡黄色の雄花と両性花をつける、萼片5個、花弁5個、雄しべ8個。果実は翼果、長さ3〜4cm、褐色の毛を密生、ほぼ直角に開く。【4】【18】【37】

■名は、材が黒いことを鉄に見立てたもの。【18】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
テツカエデ				●	●							

【花期 4〜6月】

テッポウユリ　観賞用に栽培する【18】　2018.6.19千曲

花　芳香がある。雌しべの先端の柱頭は丸く3裂する【84】　2018.6.19千曲

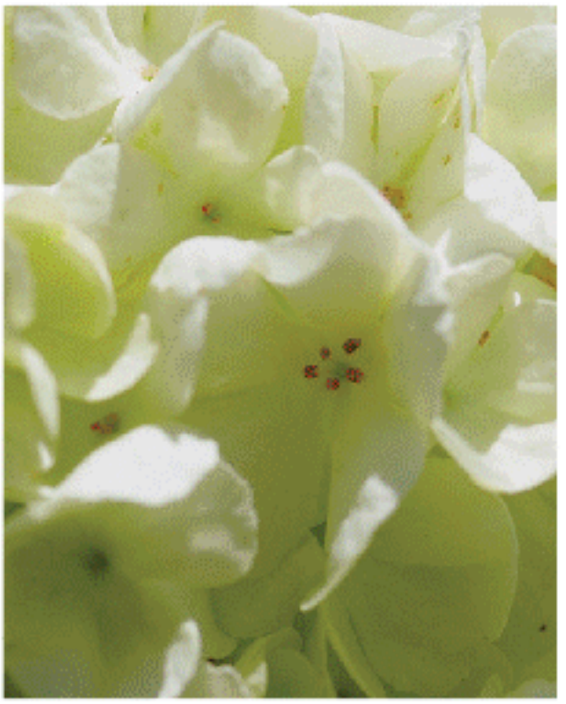
テッポウユリ 鉄砲百合　別名タメトモユリ〈ユリ科ユリ属〉

九州種子島以南、沖縄、八重山諸島、小笠原諸島に分布し、海岸の崖や岩場に生える多年草。茎は直立。高さ50〜100cm。葉は互生、披針形、長さ8〜15cm、無柄、先は尖る。花は茎の先端に数個、白色、横向き、ラッパ形、長さ10〜15cm、先端6裂、外側に向かって反り返る、雄しべ6個、花粉は黄色。果実はさく果、筒状、上向き。【18】【42】【58】【84】

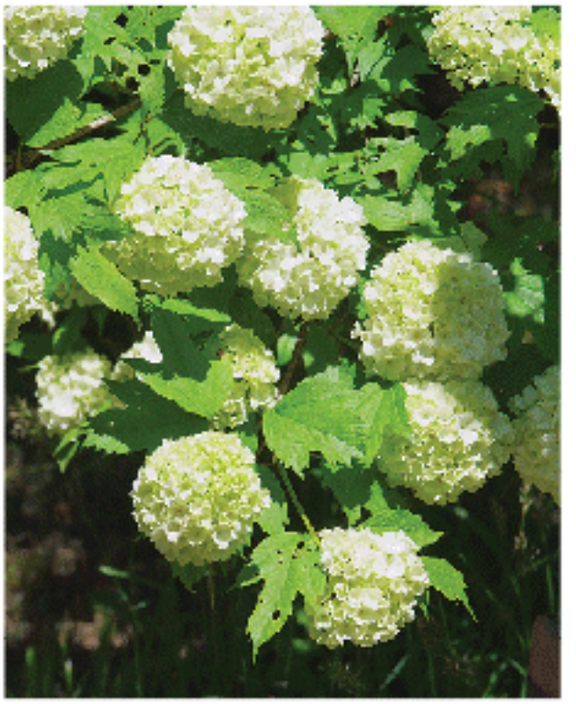
■名は、細長い花形を昔の鉄砲に見立てた。【18】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
テッポウユリ		○										

【花期 5〜7月】



花　2010.6.7軽井沢



花　葉　2010.6.7軽井沢

テマリカンボク　2010.6.7軽井沢町植物園

テマリカンボク　手毬肝木〈スイカズラ科ガマズミ属〉

カンボクの品種で日本原産。観賞用に植えられ、高さ2〜4mになる。枝先に大きな球状の花序を出し、径約2cmの白い装飾花だけをつける。【4】

■挿し木で増やす。【4】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
テマリカンボク			○	○								

【花期 4〜11月】常緑低木

2016.9.11中津川

デュランタ・タカラヅカ　　2016.9.11中津川

デュランタ —— 別名ハリマツリ〈クマツヅラ科デュランタ属〉

北アメリカ南部〜南アメリカ原産。よく分枝し、不規則に大きく広がる、成長すると刺ができる。高さ0.1〜6m。葉は対生、楕円形、長さ3〜7cm、普通緑色、軟らかい、先が尖る、ふちに鋸歯。葉腋から円錐花序を下垂する。花は径1cm程、薄紫色あるいは白色。果実は丸い、径8mm、黄橙色に熟す。【77】【78】【83】【84】

■学名Duranta erecta。【84】
■デュランタの名は、16世紀の植物学者Cデュランテスに因む。【77】
■花色が濃い青紫で、花びらに白い縁取りが入るタカラヅカが広く出回る。【77】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
デュランタ							●					

【花期 5〜9月】

デロスペルマ・レイコウ　2004.10.16中条

デロスペリマ・イエロー　2015.6.13小諸

デロスペルマ —— 別名耐寒性マツバギク〈ツルナ科デロスペルマ属〉

南アフリカ原産の常緑多年草。茎は地面を這い、横に広がる。高さ10〜20cm。葉は多肉質、密につく、寒い冬には赤色に変化する。花はキク型、花色は朱色、赤紫色、ピンク色、黄色、白色など。【58】【83】

■マツバギクは2種類出回っており、耐寒性マツバギクと呼ばれるデロスペルマ（Delosperma）と耐寒性が低いランプランツス（Lampranthus）に分かれる。【83】
■花色は豊富だが、実際よく見かけるのはピンク色のデロスペルマ・レイコウ。【83】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
デロスペルマ									長野	山ノ内		

【花期 4〜11月】

デロスペルマ・ペリドット　　2015.6.11長野

デロスペルマ・ペリドット ―― 〈ツルナ科〉

熱(あつ)さ、寒(さむ)さ、乾燥(かんそう)に強(つよ)い。【鉢に置かれた名札】

■学名はDelosperma hyb.。【鉢に置かれた名札】
■デロスペルマ＝耐寒性マツバギク。【83】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
デロスペルマ・ペリドット				●								

【花期 6〜8月】

花軸や花柄に細かい腺毛を散生【18】

葉　2009.7.4栂池自然園

テングクワガタ　萼は長さ3mm位【18】　2014.7.22栂池自然園

テングクワガタ　天狗鍬形〈ゴマノハグサ科クガイソウ属〉

深山の日当たりがよく湿った所に生える多年草。茎は地を這い、先が直立、高さ10〜30cm。葉は対生、卵形か楕円形、長さ7〜16mm、先は円く、ふちに少数のごく低い鋸歯、無柄、やや茎を抱く。茎の上部に細い花序を出し、花を総状に10〜20個つける、花冠は4片に裂け、淡青紫色、濃い色の筋がある、径5〜7mm、花柄の基に小さな葉のような苞葉がある。【3】【15】【18】【32】【33】

■山小屋の周辺などによく見られる。【15】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
テングクワガタ												

テングサ　あたり一面、海の香りが漂っていた　2004.1.19諏訪

寒天の天日干し　茅野・諏訪地方では12～2月に行われる　2008.1.14茅野

テングサ　天草

テングサ科の紅藻。干潮線以下の岩に生える。平たい線状で、硬く、細かく分枝し、高さ10～15cm。暗紅色。古くから心太、寒天の材料にされる。[5]

■心太＝海藻のテングサを煮て、寒天質を濾(こ)し、型に流し込んで冷やし固めた食品。「ところてん突き」で突き出して紐状にし、酢醤油、二杯酢などをかけて食べる。夏の風物詩とされる。[5]
■寒天＝テングサなどの煮汁を凍結・乾燥させた食品。煮溶かしかしてぜりー状とし、蜜豆、水羊羹などの材料とする。また、微生物の培養基や写真工業など利用は広い。[5]

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
テングサ												

【花期 4〜5月】常緑低木

葉　2007.5.15軽井沢町植物園

若い実　2009.6.13軽井沢町植物園

テンジクメギ　2007.5.15軽井沢町植物

テンジクメギ　天竺目木〈メギ科メギ属〉

中国原産。高さ2〜5m。枝に細い刺が生える。葉は互生、長楕円形、ふちに刺状に尖った粗い鋸歯、下面は粉白色。花は黄色、小さい。果実は液果、秋に青黒色に熟す。【58】【軽井沢町植物園の名札】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
テンジクメギ			●									

【花期 ――月】

ノビル系デンドロビウム　　2017.3.10フローラルガーデンおぶせ

デンドロビウム ―― 別名デンドロビューム〈ラン科デンドロビウム属〉

東南アジア、オーストリア北部原産。1200種もの大群で園芸品種も多い。原産地と特性によって、ノビル系とデンファレ系に大別される。【25】【74】

■ノビル系……デンドロビウム・ノビレを中心として品種改良された系統。茎(バルブ)は細長く、膨れる。葉は互生。根は茎の基部から発生し、樹木の幹や枝に着生する。12～3月に開花。【74】【77】

■デンファレ系……デンドロビウム・ファレノプシスの略。茎は直立。茎先に30cmほどの花茎を出し、20個前後の花をつける。夏～秋に開花。贈答用・切り花用として多く栽培されている。【74】【ウィキペディア】

■学名Dendrobium。【77】■学名は、ギリシア語で「木に生きる」の意。【25】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
デンドロビウム	○											○

ムサシアブミ　2002.5.22軽井沢

マムシグサ　2014.5.24伊那

ユキモチソウ　2002.5.22軽井沢

2002.6.2長野

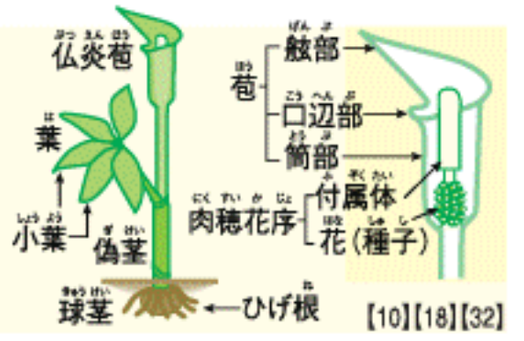
ヒメウラシマソウ　2004.5.15軽井沢

果実　2013.10.6戸隠

テンナンショウ　天南星　別名ヘビコンニャク〈サトイモ科テンナンショウ属〉

サトイモ科テンナンショウ属の総称。マムシグサ、ウラシマソウ、ミミガタテンナンショウ、ムサシアブミなど。山地の湿った所に生える多年草。花は仏炎苞をもつ。塊茎は有毒であるが、漢方で薬用にする。【5】【10】

- テンナンショウの名は、この仲間の中国名天南星から。【32】
- この仲間は分類が大変むずかしく、日本に約40種類あると言われている。【10】
- 果実は液果。秋に熟し、赤色が鮮やかで毒々しい。【18】【33】
- 付属体の役割はよくわからない。【10】



【10】【18】【32】

【花期 6〜10月】

2015.7.3池田

テンニンギク　2015.7.3池田

テンニンギク 天人菊 〈キク科テンニンギク属〉

北アメリカ原産の一〜二年草、または短命の多年草。明治中期に渡来。茎は直立、分枝。高さ20〜60cm。葉は互生、全体に粗い毛、下部の葉は深く切れ込む、上部の葉は披針形〜篦形、全縁。枝先に頭状花をつける。管状花は毛羽った感じのえんじ色、舌状花は先の方が黄色、基部は赤橙色。【18】【58】【78】【84】

■学名Gaillandia pulchella（ガイラルディア・プルケラ）。【78】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
テンニンギク					●							

【花期 8〜10月】

テンニンソウ　蕾の時は大きな苞葉が重なり合った姿に特徴【32】1999.8.31鬼無里

花穂　雌しべ1個【42】2000.9.4鬼無里

果穂　萼が宿存している

宿存萼（左下）・種子　1目盛は1mm

テンニンソウ　天人草〈シソ科テンニンソウ属〉

山地の木陰や草地に群落をなす多年草。茎は四角柱、高さ60〜110cm。葉は対生、有柄、長楕円形または広披針形、長さ10〜25cm、幅3〜9cm、先も基部も細く狭くなる。茎の先に花穂を出し、淡黄緑色の花を密につける、萼は筒形、5裂、花冠は唇形、長さ約8mm、上唇2浅裂、下唇3裂、雄しべ4個。【3】【5】【18】【32】【42】

■名の由来はよく分からない。【1】■深津正氏は名の由来を、散り方が無残なことから「天人の五衰」に結びつけたか、と見る。【25】

■葉の裏面の中脈上に著しく毛の生えるものをフジテンニンソウという。【3】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
テンニンソウ					●	●	●	●				